

新日本古典籍総合データベースにおける 古典籍画像へのDOI付与とその運用

田中 梓(国文学研究資料館)

令和3年12月23日(火)

次第

- はじめに
- DOI登録の対象コンテンツ
- 運用上の工夫
- DOI登録の意義と効果
- これからの課題

はじめに（データベースの紹介）

新日本古典籍総合データベース

古典籍（江戸時代以前の古い書籍）について

書誌（書籍としてのメタデータ）と所在（所蔵者）情報とともに

資料の画像を検索・閲覧・公開できるデータベースです。

国内外の図書館・博物館等と連携し、収集・蓄積を進めています。

<https://kotenseki.nijl.ac.jp>



DOI登録の対象コンテンツ

古典籍資料の画像とメタデータ



新日本古典籍総合データベース



1/2 > 戻る

源氏物語画帖

書誌ID	200014736
DOI	10.20730/200014736
種別	国文研蔵
刊写	写
形態	38.7×50.6cm
冊数	1帖
書誌注記	〈写〉江戸前期写。〈般〉団扇画。
コレクション	国文学研究資料館 貴重書
請求記号	99-121

著作情報

著作ID	4380541
統一書名	源氏物語画帖（げんじものがたりがじょう）（Genjimonogatariqajou）

運用上の工夫(IIIFへの組込)

IIIF (International Image Interoperability Framework)
という規格で画像を公開。

複数の画像で構成される資料について
各画像のURLやページ順、権利者などの記述を
マニフェストという1ファイルにまとめることで
同じ規格の公開システム間で連携できる。

運用上の工夫(IIIFへの組込)

マニフェストへDOIを記述することで連携先でも確認・参照が可能に。



登録の意義と効果①

データベースの変遷による影響を受けない。

以前のDBでのURL: http://dbrec.nijl.ac.jp/KTG_B_200014736

現在のDBでのURL: <https://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/200014736>

将来のDBでのURL: ?????????????????????????????????????/200014736

DOIによる永続的URL: <https://doi.org/10.20730/200014736>

登録の意義と効果②

外部との連携が保証しやすくスムーズになる。

当データベースの今後の展開としては
データを活用するデータ駆動型を目指していきたい。
DOIによって様々な外部データとの連携が保証される
意義は非常に大きい。

これからの課題①

- データベース上の書誌データは、論文に比べると、修正や更新頻度が高く、管理体制を効率化する必要がある。
- 他機関所蔵の資料も収録しているので、同じ資料に当館データベースと所蔵機関でそれぞれDOIを付与しているケースもあり、今後マルチプルリゾリューションを導入して重複状態を解消する必要がある。

DOIって、なに？

新日本古典籍総合データベースで検索し、古典籍の画像をみていると、右横に書誌データなどが併記されています。そのなかにDOIという項目があり、なにやら数字が列記されているのは、存じようか。研究者のなかには論文などで既に「存じかもしれませんが、このDOIをどう使ったら良いのか、使った経験がある方は少ないのかもしれません。使い方が案外大変便利なデータとなるはずですよ。

DOIは「Digital Object Identifier」の略字からなります。ウェブ上のデジタル文獻（論文や研究資料）と「1対1」に対応するようにならされた国際的なデジタルオブジェクト識別子です。Microsoft EdgeやFirefoxなどのブラウザに入力すると、文獻等の所在情報（URL）が変換されます。URLは「皆さんご存知のURL（ウェブ上の住所）」とウェブ側で認識される名前とからなることを覚えてください。

新日本古典籍総合データベースで公開している特定の典籍画像をみるためにはウェブ上に表記されるURLをおさえておくことが必要ですね。ところが、ウェブサイトは、なんらかの理由で変更されることを多く、URLの変更などが生じがちなことです。いわゆるリンク切れは、こうして発生します。

DOIは、そうした事態を回避できる仕組みです。サイトのURLが変わってもDOIは変わりません。ウェブ上のデジタル文獻やDOIを使いつく管理すれば、常に同じURLでアクセスできる仕組み（本来のURLへの転送）が作られるのです。たとえば、研究者が論文などを執筆するときに「新日本古典籍総合データベースを利用した

／参照した」についてURLを記載されることで、リンク切れが、10年二十一年という時間の経過と共に、何らかの事情でそのURLがリンク切れとなり、結局どんなデータ・データベースを利用したのか、当代の読者には判らず、検証することが出来なくなったら不便この上ないことと思います。論文にせよ、研究データにせよ、検証可能性の継続が最も重要なことです。

すべてのDOIを管理し、URLの転送を行っているのは国際DOI財団であり、国文研は「日本唯一のDOI登録機関ジャパンDOIセンター（JALC）」の正会員として、古典籍「古文」に付与しています。たとえば、国文研蔵の『伊勢物語』は相当古本のほうですが、このDOIを明示することによって特定出来るのです。DOIは、各機関固有番号を示すprefix（プレフィックス）と、個々のコンテンツを特定するsuffix（サフィックス）とを「/」で区切って記号で繋いだ形になります。DOIは「https://doi.org/」を付けることにより、URLとして機能します。国文研のprefixは「10.20730/」であり、国文研が撮影・提供を受けた他機関所蔵の古典籍にも付与しています。研究データを保管管理している機関のみ付与でき、永久に維持することに責任を持つてくれる証でもあります。

研究者は、論文などでどのように記述した方がいいのでしょうか。論文本文や註文に「DOI:10.20730/200023596」などで書くとあるらば近年は「https://doi.org/10.20730/200023596」のように記載することが推奨されています。国立国会図書館デジタルコレクションにもDOIが記載されています。その何項目にも上限をする場合、その旨併記が親切です。

古典籍共同研究事業センター

これからの課題②

- 人文学分野ではまだまだ紙媒体が強く電子的リンクについて普及が進んでいないので、広報を強化していく必要がある。

広報記事
「DOIって、なに？」
国文学研究資料館
ニュースレター『ふみ』第16号より

これからの課題②

●データベース構築事業の
広報誌やパンフレットで
DOIについて紹介し、利用
促進を図っています。

広報用パンフレット

「論文に引用する古典籍にDOIを明示しましょう」

<http://id.nii.ac.jp/1283/00003167/>

DOI (ディー・オー・アイ) って何

Digital Object Identifier の略。

恒久的にデジタル情報を特定できる、**国際的な識別子**。それがDOIです。対象は、書籍や論文にとどまらず、研究データ、さらに映画やテレビ番組などの情報資産にも、広がりが続いています。

インターネット上にあるデジタルコンテンツの所在情報は、一般的にURL (<http://...>) によって示されています。しかしページやコンテンツの場所などが変わるたびにURLも変更になり、わずかな数年で、対象のサイトに行き着けないということがしばしば。

そこで、デジタルコンテンツへの永続的なアクセスを実現するため考案されたのが、DOIです。

日本では、大学図書館や国立情報学研究所、国立国会図書館が古典籍のデジタル画像へのDOI付与に先進的に取り組んでいます。国立国会図書館では、博士論文(14万件)等への付与に加えて、2015年2月から、約9万件的の古典籍画像にもDOIが付与されました。

DOIは、いま研究者が知っておくべき識別子なのです。

古典籍もインターネットの時代には注目されるDOI

<参考> DOIハンドブック
http://www.doi.org/doi_handbook/translations/japanese/hb.html



DOI利用のメリット

リンク切れなし

恒久的に、確実に、画像に到達できます。また、DOIはURLに変換が可能です。



画像の確認が簡単

DOIを入力するだけで画像にたどりつけるので、OPAC(蔵書検索システム)を利用して、所蔵機関の請求記号を調べるなどの手間が省けます。また、すぐに画像を確認できるので、論文内容の検証が容易になります。



たとえば、発表の途中でも資料に示されたDOIをタブレットやPCで検索すれば、参加者はその場ですぐに検証が可能となるのです。

書誌情報も同時に確認可能

国文研の場合、DOIは今後のシステムで書誌情報とともに示される予定ですので、DOIを入力することで、画像を含む書物全体の情報を得ることができます。



タイトルだけでは区別しにくい多くの版権がある場合も便利

たとえばDOIをつけることで、国文研に2点ある『倭姫物語』を区別することができます

国文学研究資料館蔵「倭姫物語」

DOI:10.□□□□/○○○○○○○○○  (文化元年 朝皇宮右衛門尉)	DOI:10.□□□□/△△△△△△△△  (風吹元年の後印)
---	--

縦書きの目録がなくなる